



2005・号外
発行：法問寺
題字：鈴木裕子

◇客殿・建築途中経過報告

三月初旬の旧客殿・庫裏解体から始まり地鎮式・上棟式と無事にすんでおります。ここで解体から上棟式までの経過をお知らせいたします。

三月に入っ
たらまずは旧
建物を解体す
る予定で二月
から旧室内の
整理片付けが
始まりました。
二月の後半は
朝から晩まで（寝るまで）ほとんど
片付けをする毎日でした。休憩時間
は食事をする時間だけという生活
でした。今は本堂の下で住職夫婦と
犬とで生活をしています。（老僧は
九州の親類筋で生活しております）
二月三月、四月と今年は寒い日が続
き、冷える本堂の下での生活は知ら
ず知らずの内に体調をくずしてい
るようです。五月になってやっと暖
かさを感じるようになりました。さ
りて三月の解体開始時には予定より
一週間程工程が遅れてしまい、作業
車などの侵入経路が大幅に変更せ



ざるをえず、樹木の剪定、裏庭の植
え替えと作業
工程について
も変更するこ
とになってし
まいました。
やっと解体に
なり春のお彼
岸時には旧建
物もなくなり
ました。つぎに基礎工
事が始まりま
すが、その前
に史跡調査を
することにな
っており、も
し何か史跡が
発掘されると
その調査のた
めに工事が遅れてしまうことにな
ります。江戸時代後期の茶器の破片
が出たようですが特に調査の必要
もなく地
鎮式を迎
え建物基
礎工事と
なりまし
た。地鎮式
について
は工事関
係者だけ
で行われま
したが、こ
れからの工
事が事故も
なく無事完
成できるよ
う



事が始まりま
すが、その前
に史跡調査を
することにな
っており、も
し何か史跡が
発掘されると
その調査のた
めに工事が遅
れてしまうこ
とになります
。江戸時代後
期の茶器の破
片が出たよう
ですが特に調
査の必要もな
くなく地鎮式
を迎え建物基
礎工事となり
ました。地鎮式
について



は工事関係者
で行われま
したが、これ
からの工事が
事故もなく
無事完成で
きるよう

祈念されました。基礎工事も無事に
進み最初の区
切りになる上
棟式を迎える
ことになりま
す。上棟式は
五月二十日
（友引）の日
を予定してい
たのでその日
にあわせるよ
うな工程に
なりました。
当日は早朝
から雨が降り
続き、雨の中
で棟上の作
業が続きまし
た。前日まで
二階部分が無
かったのに一
日で柱がど
んどん建っ
ていきます。
夕方四時
にはなんと
か棟上され、
上棟式を迎
えることにな
りました。
当日は高砂
源照寺様にお
手伝いを
いただき、



に、雨だれのなか
でしたが無事
に上棟式を終
了することが
できました。
その後小宴を
行い更なる工
事の安全を祈
念することに
なりました。



総代・世話人、皆
様のご臨席の
もとに、雨だ
れのなかで
したが無事に
上棟式を終
了することが
できました。
その後小宴
を行い更なる
工事の安全
を祈念する
ことになり
ました。

◇客殿勸募金入金者のご報告

四月より客殿新築にあたる勸募（寄附）
をお願いしておりますが、五月末日まで
にご寄附いただいた方をお知らせいた
します。（敬称略、一括納入された方、
分割納入された方を分けずに表記しま
す、尚七月のお盆には本堂内に寄附額を
設置するよう準備しております。戴いた
金額と寄附者名を入れ永く奉納いたし
ます）

- （総代）小川東吾、清田増雄、小澤竹夫、
佐藤義和、（世話人）島田裕司、上原實、
上原満幸、田島新蔵、上原哲夫、高野隆
雄、成澤裕喜男、（檀信徒）新井愛子、
石原一朗、伊藤政一、岩澤富美子、上原
清重、上原進一、碓井昭一、内久根富子、
江幡晃、岡花千代、大澤君代、小川信男、
小澤頼直、笠松進、柏崎住久、梶和蔵、
勝野忠男、加藤和子、加藤信久、加藤寛、
清田信重、桑島ユキエ、小暮康男、小松
順一郎、斉藤政治、佐藤正、佐藤肇、島
田敏一、島田節夫、島田広行、島田富義、
嶋田一蔵、鈴木きよ子、鈴木敏夫、鈴木
百合、鈴木静、瀬尾茂、清野保子、染谷
峰夫、高瀬甚七、高沢貞雄、田島不二郎、
田島武雄、田島一、田島金次郎、筒井啓
之、津野篤司、鶴瀨古幸、鶴巻靖哲、天
明屋清示、中島直美、中島芳男、長瀬敏
子、野口敬高、花島悟楼、堀越陽子、前
川鈴江、松島啓泰、三品八ナ、三瓶洋一、
水谷健三、山田貞幸、渡辺忠昭、渡辺み
さ子 以上